時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行 廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢
自十一行至卅行	九錢	七錢	六錢	五錢
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢

時事新報社神戸出張所設置
時事新報は一年三百六十五日一日も休みなき新聞紙なりとて其評判甚だ高く關西地方の配達紙數近來頓に増加したるに付ては一層配達幷に通信等の便利を謀り今般新たに神戸港榮町六丁目百六十九番地に時事新報社の出張所を設置し神戸兵庫市内は新報着次第直に出張所より配達し又下廻りの新報も是迄は横濱より神戸へ着の上一旦之を大坂に廻し同地より更に下通ひの汽船に托するの手都合なりしも今後は之を改め神戸出張所の手を以て直に同船に積入るゝ事とあしたるに付ては神戸兵庫市内の配達は申そに及ばず中國四國九州の各地方に至るまで新報の到着は今後一層速かあるべし此出張所にては御注文に應じて神戸兵庫の看客へ時事新報の直配達を爲すのみならず新報へ登載する廣告の御依頼をも引受くべし

時事新報

時是れ黄金

とは元と西洋の諺にまて今い既よ日本人の内に膾炙し世上に之を悦ばざる者なし即ち人生は勞働して衣食を得るものなれば時を空ふするは取ても直さず金を失ふに異あらず一日の骨折と以て卅錢を得べ次人力車が半日供待して十五錢を失ふに勘定は世人の普く知る所にして疑ふ者もあらる可し尚は以上に上り人々の職業次第にて一日一圓の人もあらん二圓の人もあらん一年に三千六百圓の所得ある人は一日の骨折十圓ふ雪り其半日を空ふするは即ち五圓金を失ふなりと知る可し是れは一人一家の私の勘定なれども私の所得は即ち集まりて一國の富と爲り富家い富國の基なりとの道理も明々白々にして是れ亦疑ふ者ならる可し左れば一國の人事は其公私を問はず都て手數を簡易にまて勉めて人の勞働を空ふすることなく何事も早く埒と明けて烟草一服の間も無益にせざるい一人一家の利益のみならず天下經濟の大事と申す可きものなり如何とあれど其一服の時間は幾許の費金にまて之と空ふするい家の爲め、國の爲めに財と失ふものなればあり

右の道理にして明白なるときは我輩が常に要ふる所の今の官邊の繁文は國の爲めに利害如何と尋ねて其幾辨に當惑するものなり但し國家の利害あと云はずして之に費ふるに損益の二字を以てし全く商賣上の勘定よりと云ふに政府の文事はいよ〳〵進歩すれば隨て其事務の繁多あるも自然の數にして其影響は直に民間に及び凡百の民事都て政府の文ふ伴ふて進歩せざるを得ず例へば戸籍の事、衛生の事、教育の事、土地の事、家屋の事、死亡出生の事、商賣營業の事、貸借賣買の事等その調査いよ〳〵精密あれば人民は之に慣るるに間樣の勞働を以てせざる可らず然るに今日の日本を觀れば政府こそ特に文明あれども民間十中の八九は依然たる書生風にして目新の新文明に狐狸するの情を免かれず之が爲めに無益の奔走費間に勞して時を失ふまと之如何ばかりなる可きや實に存外至極の事共なり我輩い東京に住居して政府の筋に關係の事は各地方ふ比して餘はど簡便なりと稱する者なれども雇人の出入は之を屈け、食客書生も寄留なれば其屆に法あり、少々の普請修繕立足しにても家屋税等ゝ事あれば之と私にす可らず、下水は云々、便所は云々、上水に飲む可きあり飲む可らざるあり、時として外國人など雇入るれば其手數は最も易からず、又時として郡區役所に呼ばれて罷出れば飼馬の有無と其歳と其産地と其毛色とを尋ねられ、屋敷地に樹木の有無と其種類と其大小とを調べられ、子供の種痘い如何と糺され、老母は離れの弟何女なるやと問はれ又或は府縣會の要用にてもあるか當府内に於て地租五圓以上を納む、一年以上禁獄の刑に處せられたることあるか、身代限の處分を受けしことあるか、海軍人に非ず、府縣會に於て退職者とせられたるまと、おき旨の書面ふ調印して指出す可しと促がさるゝ者も、あり、旅行すれば旅行の屆、歸京すれば歸京の屆、出産埋葬傳染病の屆い勿論、都て願屆には書面と要して其書に又た式あり既に先般時事新報社の戸外に日除けの爲め柳の木四五本を植ゑたるにも數片の書面と數日の奔走にて官民の勞働は中々容易ならず試に社にて計算したるに柳と植る爲めに數日奔走しさる員の骨折と幾枚も認めたる願書の下案、淨書の寫字料筆墨紙代とを合計それば植木屋へ拂ふたる樹木代と手間賃とよりも遙に多き數を得たり以上の事情、時としては中央政府の旨に協ふず唯人民が公務に不案内にして官民の間に關らざる間違を生じ以て雙方に無益の手間と潰そことも多からんと雖も間違あるも間違ならざるも日本國中に潰れたる手間い銭の勘定より見て無益なりと云はざると得ず畢竟これとても政府の筋の無理なりとも云はざるのみか其公務中甚だ大切なる箇條も多し之を施行して人間萬事と整然たらしめ東京府下四里四方百餘萬人の運動を見るまと之を掌ふ指すが如くならんとするには如何にも必要のことあり即ち文明の住境に入りたるものならんなれども唯恨らくば市民い未だ文明を知らず、否な知らざるに非ず其生計渡世に忙はしくして之を知るの暇と得ず時々公布の文面さへ之を讀まずして終日終年寸暇を得ず總身に汗して衣食を逐ふの最中忽ち公用の關係に逢ふて狼狽するのみ而して其狼狽の結果如何と尋ねれば時を空ふして勞働を中止し所謂黄金を失ふて自から苦しむのみならず詰り日本國の損亡を見る可し贖に殘念なる次第なり左れば方今全國の地方政治幷に警察事務に就ては我輩敢て之を非難するに非ず文明盛事の一方より見ればいよ〳〵進歩していよ〳〵美ありと雖ども銭の一點に眼と着して少々の不體裁は之と忍んでも費分か事を簡にして國民に時を與ふるまとを勉め一民をして半日の時と空ふせしめざるは即ち半日丈々の黄金を得せしむるものなり即ち國の爲めに夫れ丈けの國財を得たるものなり即ち富國の源に一滴を注ぎ入れたるものなりと勘辨またらば或は更に結果の生ずるまともある可し我輩自から既なきにあらざれども先づ差控へて之と當局者の方寸に任せるものなり

官報

○標準時ノ施行　昨明治十九年七月十二日勅令第五十一號ヲ以テ公布セラレタル本邦一般ノ標準時ハ愈々來ル二十一年一月一日ヨリ施行セラルヘシ（内務省）

標準時ハ本邦一般ニ遵守スヘキモノニテ商業上裁判上及汽車汽船ノ發着其他百般ノ事業ニ關係スルモノナルガ故ニ官民ヲ論セス最モ注意セサルヘカラス故ニ標準時ノ初起即チ一月一日午前零時零分ニ於テ内務省地理局觀象臺ヨリ全國電信局ニ通報シ東京及其他號砲ノ設アル所ニ於テハ特ニ號砲ヲ發ス但爾後ハ正午毎ニ同觀象臺ヨリ各電信局ニ通報スルコトヽス

標準時ハ本年七月四日ノ官報ニ記シタルカ如ク西國ニ於テハ從前ヨリ早クナリ東國ニ於テハ從前ヨリ遲クナル等ナリ就キテハ諸業ニ於テ種々ノ關係ヲ生セントス豫メ注意スヘシ

標準時決定ノ原因ヲ知ラント欲スル者ハ昨十九年官報九百九號ヨリ九百十三號ニ就キテ之ヲ觀ルヘシ（本年十二月十七日官報）

雜報

○黒木少將　此程出京したる黒木陸軍少將い昨十九日出發して名古屋に歸任せしよし

○陸奥公使　は一昨十八日東京を出發して豆州熱海に越さたるよしあり

○米穀輸出會社　先程資本金百萬圓を以て創設したる兵庫米穀輸出會社は本月五日を以て愈々開業したるが恰も好し目下新米出盛の季節なるに其上、米價の安直なるが爲め海外輸出には彼是の便益と趣するの好時機に際するが故に開業の當日より神戸居留地の商館より輸出米の注文多く中々繁昌せりと同社は元來兵庫の重立たる米問屋諸氏が發起せる者にて重役より手代に至る迄悉皆其道に長ずたる實驗家多ければ米穀の買入に付米質の檢査又直押の手管等諸事曾快速にして殊に同社の發起人たり株主たる者は巨商豪戸多く就中一箇人にて二十萬圓若くは十萬圓の株を引受る者も多ければ隨て外國商館の信憑も厚く積々新注文を來し頗る前途の望を屬すべき景況なり目下は唯玄米の輸出に止れども追ては精米をも輸出せる見込にて此頃精米器械（一箇一萬五千圓）二基と獨逸に注文したるが到着の上は其一を兵庫に又一を肥後の三角港に据付商館の注文次第にて精米玄米の兩樣を輸出する計畫ありと云ふ又同社い追々爪哇、印度の諸地方に取引先を設け置き若し内地の饑饉とか其他の事柄に依りて米價の湧騰するとも為らば其際外國米と輸入し來て常に米價と平均せるの機關とも爲る見込もありと

○來觀人の總計　本月一日より十五日まで上野公園地内博物館、動物園の來觀人は總數六千九百四十七人内動物園は四千六百十九人なりしと

○日本橋魚市場市況　本月一日以來に差したる相場の異動もあく賣口も兎角捗々しからず併し昨今は幣や魚類入津の減少したるゆゑ少しく上向ての氣味合あり挺木鮪は最上等十貫目に付五圓七八十錢より六圓位、鮪同四圓七八十錢、目鉢同三圓位、鯛は隨分景氣宜しく江戸前上等尺鯛一尾一圓二三十錢、銚子九十九里邊の品にても上等尺鯛九十錢位より一圓、尼鯛は上等目ノ下八寸位にて同七八十錢、平目上等尺三寸位にて同八十錢、イナダ同六錢、ワラサ同三十錢、鰯鳥賊同一錢五厘又北海道より昨今鼠鮫の入津ありて最上等い十貫目に付二圓七八十錢なり其他の小魚も普通相場よりは幾分の高直あれども矢張り捌口宜しからず併し新年も最早迫々切迫し來りたれば其高氣配を現はすに至るも近きにあるべしといへり

○上海通信　十二月九日發
朝鮮の公使派遣　朝鮮は獨立國の實格を持ち乍ら此度二三公使を歐米各國に派遣するに付ては既に全く支那政府の旨令如何に照準し朝鮮國王李熙の使命を奉ずする所にして最近天津朝鮮總理交渉事宜袁世凱の轉奏許可を經て諸外國之を實行し且つ例の如く之を欽遵すべし因て現に却伊壌等に擬造せしめて今大倉洋行　曩に天津には淺しと雖も本邦より出先づ開行を以て第一繁昌しが今度其二三役員は數二宮某氏外數名は一應歸芝罘近輩　昨日該地より本邦居留人とは實に僅商賣店とても之れ為く偶め出張するものもあるよ至らず左れば過日來高橋掛と居る由に聞及びたる機樣なりと

有利銭行　當地に於て英も其名稱の如く日增に繁唐の帳面を取纏め結算集議を催しさるよしにて一切經費を除き實計尚ほ利を得たりしに其後一層ば當下半季の結算には定べしと株主一同も頗る騎駝毛の商況　目下羊毛等澤山輸出せるに其は外商の多く之れと買入の内に泥砂毛髢屑等ば外商は一時大に損失を以て最早今日い斯く商業掘山公使館書記官　同氏て天津より順和號に乗込便横濱丸にて歸朝する等

○長野通信　十二月十一知事書記官　木梨知事に入浴の爲め出發しより村へ出張以來目下東京にりといふ

第二遠路線　上田松本間に稻荷山橋本間に替へんと い容易あらぬことなりと る由は過般既に報道せし其他十名の諸氏當地に來見を見陳またる上猶參考事者へ一通と聞會へ著出りといふ又松本稻荷山間き本日と以て東筑摩郡坂

華族世襲財産公告
一當會社株式ノ内貳百株
右ハ華族從二位子爵土方久元所有ノ分今般世襲財産トシテ定メ爲請者一科凡二百名ヲ許ス公私立小學校及尋常師範學校教授法
當館明治廿一年第一期（二月ヨリ五月ニ至ル）學術講義
（物理學自然學部）第一等中學校教諭村岡範
（英語）普通教授學部第一等師高等師範學校教諭田功太郎
ト定メ聽講者一科凡二百名ヲ許ス公私立小學校及尋常

●近火御禮　新橋町新聞雜誌發賣所　長明堂
昨夜近火ノ節ハ早速御見舞被下難有仕合奉存候其節混雜中致名伺ひ漏シ候邊ハ難御容依テ新聞紙上ヲ以テ此段御禮申上候也

△兩換店
昨夜近火の節は早速御見舞被下難有仕合奉存候其節混雜中致名伺ひ漏シ候も難御容依テ新聞紙上ヲ以テ此段御禮申上候也　日本橋